

薄

10月というのに、最高気温は29℃。道行く人は額の汗をハンカチで拭い、半袖の薄着。夏が継続しているかのようです。そんな折にうれしいお知らせが飛び込んで参りました。「令和7年度きよせひまわりフェスティバル写生コンテスト」において本校3年生が清瀬市議会議長賞を受賞したのです。濃い黄色、薄い黄色、複数の黄色を使ってひまわりが描かれています。雲に遮られながらも十分に存在を示す太陽の光。受賞する前からこの作品にスポットライトが充てられていたのではないのでしょうか。手前に並ぶひまわりに垣間見る薄い影がその光を際立たせ奥行きをつくっています。コンテストも夏のままなののでしょうか。



1年生の英語では、発表者にスポットライトが当たっています。英語のスピーチにより友達を紹介しました。身振り手振りが大きくなり、前回の取材時より聴き手に伝えようとする姿勢が伝わってきました。生徒たちが海外で活躍する日々がうっすらとみえてきました。

8日夜のニュースでは、三宅島・八丈島に「大雨特別警報が発令された」暴風・豪雨・波浪に対する注

意喚起の報道に、前任校が三宅島であるがゆえ、心配しているところです。この大雨が秋をもたらすのでしょうか。気象の単元に突入している2年生に訊いてみたいですね。9日に2年生は湿度について学んでいました。各温度における飽和水蒸気量を示すグラフを用いて、湿度について学んでいます。この理解は、雲のできる仕組みの理解に繋がります。秋の雲が浮かび始めるのいつになるのでしょうか。



それでも暦は確実に秋を告げています。6日は十五夜でありました。旧暦の8月15日の満月の

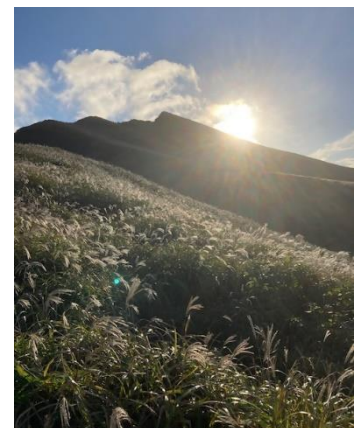


夜に美しい月を鑑賞し、秋の収穫に感謝する伝統行事です。団子やすすきをそなえて実りに感謝します。当日の給食には団子が並びました。中秋の名月の色を模して、うっすら黄色を醸し出すよう団子にかぼちゃを練り込みました。栄養士さんによる工夫です。また、事務さんがご自宅付近からすすきを持ってきてくださいました。ススキには複数の漢字があてられます。花穂は形が動物の尻尾に似ているので尾花といいます。また、稲などの穀物の実の先端にある針状の突起を芒（ボウと読む）といいます。この字“芒”をあててススキと読みます。ここまではススキとのイメージがつながります。ところが“薄”をあてて“ススキ”とい

う読みもあります。「薄い」には、厚みが少ない・数量などが少ない・心がこもっていないなど負の意味が並びます。負の言葉を含んだ薄（ススキ）をお供えするなんて。

三宅島の火山・雄山は2000年の噴火で山頂付近は一面溶岩に覆われ植物は姿を消しました。火山の溶岩上で起こる植生の回復（一次遷移）はオオバヤシャブシやハチジョウススキといった植物が根付くことから始まります。

つまり、ススキは回復の象徴、すなわち未来を 付(ふ)していくのです。



2022 三宅島雄山山頂付近で撮影
一面のハチジョウススキ